

利益の機能とは、 **現代の経営(上)P61, P105**

- ① 仕事ぶりを判定するための尺度、事業活動の有効性と健全性を測定する。
- ② 事業の継続に伴う不確実性のリスクをカバーする。
- ③ 事業の拡大と事業のイノベーションに必要な資金の調達を確実にする。
- ④ 教育や防衛などの社会的費用に貢献する税金を納める。

利益についての尺度と事業があげなければならない必要最小限の利益

”利益に関わる目標は、事業があげうる最大の利益ではなく、事業の存続と繁栄にとって必要な最小限の利益を明らかにする”ことと理解しているか？ Y・N

① 利益率についての測定方法(尺度)

当初の投資額に対する税引き前利益の割合を尺度として採用する。
 インフレ時には、当初の投資額を現在価格にインフレ調整し、デフレ時にはデフレ調整する。
 三年後とあるいは五年ごとに、ほぼ共通の尺度によって投資額を計算することができる。

<p>当初の投資額は何か？ <input style="width: 150px;" type="text"/></p> <p style="text-align: right;">¥ <input style="width: 150px;" type="text"/></p> <p>これによる税引き前利益 ¥ <input style="width: 150px;" type="text"/></p> <p>インフレ・デフレ調整 <input style="width: 100px;" type="text"/> % (考慮しない場合は100%)</p> <p>利益率尺度 = 税引前利益 / 当初の投資額 × インフレ調整 <input style="width: 150px;" type="text"/> %</p>	<p>当初の投資額は何か？ <input style="width: 150px;" type="text"/> 純資産とする</p> <p style="text-align: right;">¥ <input style="width: 150px;" type="text"/></p> <p>税引前利益+人件費 = <input style="width: 150px;" type="text"/> ¥</p> <p>利益率尺度 = (税引前利益+人件費) / 純資産 <input style="width: 150px;" type="text"/> %</p> <p>利益率尺度5% ⇒ <input style="width: 150px;" type="text"/> ¥</p> <p>利益率尺度10% ⇒ <input style="width: 150px;" type="text"/> ¥</p> <p>利益率尺度15% ⇒ <input style="width: 150px;" type="text"/> ¥</p>
---	--

② 必要な利益率と利益

- ・ 必要な利益率は、必要とする種類の資金調達のための資本市場における金利に等しい。
- ・ 自己金融の場合は、現在すでに事業に使用している資金について、資本市場の利子率に相当する利益を生み出すことに加え、さらに資金を社内留保できるだけの利益が必要である。

- 「現在すでに事業に使用している資金額は？」 (¥) (A)
- 「銀行融資での借り入れ金利はいくらか？」 (%) (B)
- 「社内留保したい額は？」 (¥) (C)
- 「税率は？」 % (D)
- 必要な税引前利益は、(A) × (B) + (C) / (1-D) = ¥ /年間 (E)
- 必要な税引前利益率は、(E) ÷ (A) = % (F)

③ 投下した資金から期待すべき利益の総額の現在価値

- ・ 年間の利益率だけでなく、投下した資金から期待すべき利益の総額を現在価値に換算して明示することが必要である。

事業年度という暴君から自らを解放しない限り、合理的な事業のマネジメントは行えない。
 「利益は何年間にわたって達成するか？」

- 年後に期待すべき利益の総額は？ (年) (F)
- (A) × (E) × (F) = (¥) (G)

「期待すべき利益の総額を現在価値に換算すると？」

現在価値 = 期待すべき利益の総額E / (1+B%)^F

- G/(1+B)
- G/(1+B)(1+B)
- G/(1+B)(1+B)(1+B)
- G/(1+B)(1+B)(1+B)(1+B)
- 年間の利益の総額の現在価値 (¥)

④ 【損益分岐点分析】 必要とする平均利益率を得るために必要な利益
「製品や事業が、経済的な変動に対しいかなる弱さを持っているか？」

固定費：売上がなくても絶対に出ていく費用は？ _____ (¥)

変動費とは売上に比例して必要となる費用のこと。材料費や外注費用、工事原価ととらえる。

・ 売上高は、 _____ (¥)

・ 変動費(材料費、外注費用)は、 _____ (¥)

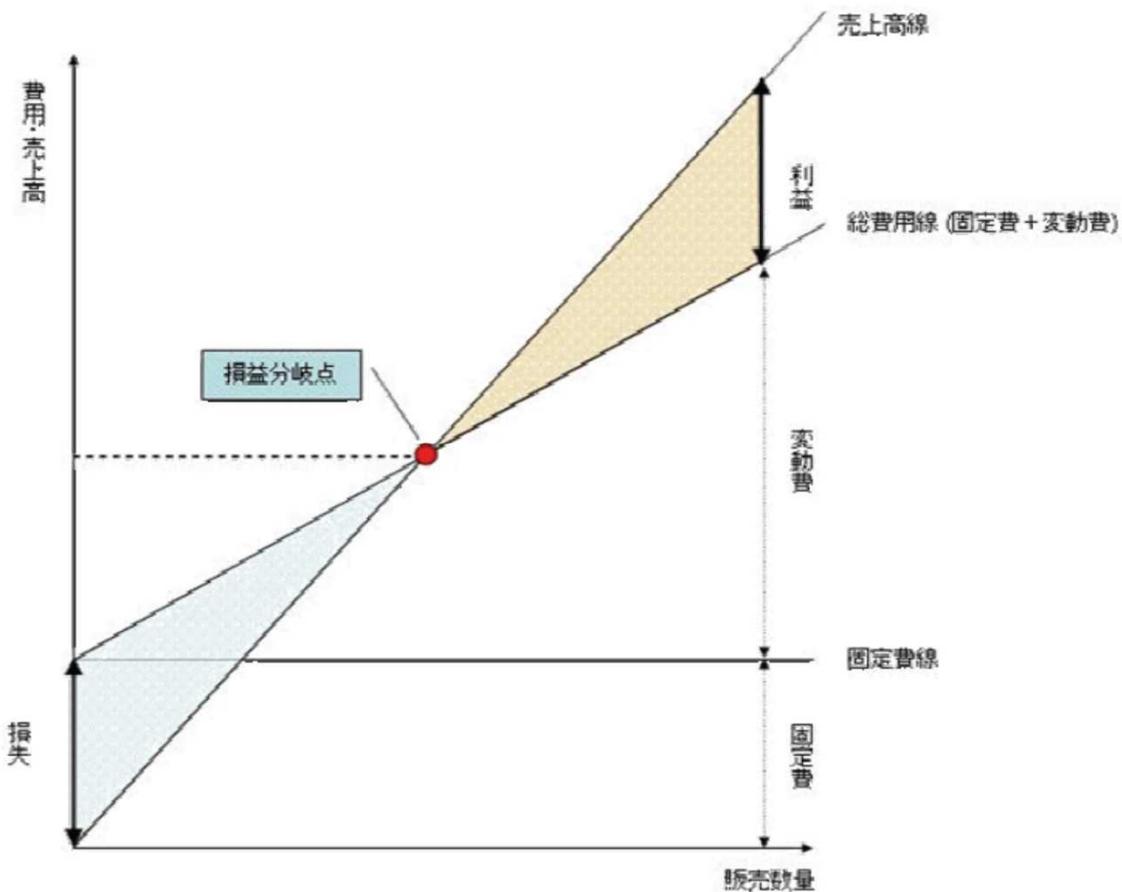
変動費率(=変動費÷売上高)は？ _____ (%)

損益分岐点売上高=固定費÷(1-変動費率) _____

この損益分岐点売上高を超えると利益が生まれる。

損益分岐点比率=損益分岐点売上高/売上高= _____ (%)

利益=(売上高)×(1-変動比率)-固定費= _____ (¥)



⑤ リスク込みの利益率の目標

- ・ 単純で小さな事業の場合には、必要最小限の利益という考え方で十分である。大きな事業の場合には、利益率とならんでリスクを考慮にいれる必要がある。ただしそのリスクは、計算できる統計的なリスクではない。
- ・ これが出来なければ、合理的な投資計画は立てることができない。合理的な投資計画を立てることができなければ、意味のある予算を組むことはできない。